

「憩いの存在」

(ペテロの手紙第一 1 章 13 節～16 節)

「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい」(1:15)

仲森文穩

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

○9月18日の敬老の日に因んで、ご高齢の方々を覚えてお話しいたします。今日の13節に「心を引き締め、身を慎む」とあります。いい言葉で、いつもそうありたいと思います。使徒パウロは「昼歩くようにつつましく歩こう」とも言っていますね。ご高齢の信徒の方が言われました。「わし、先生のその髪型、好きや」。そしてご自分の一本の毛もない頭をツルリとなでて、「わしのこの髪型もいいでしょう。気に入ってるんです」と、ニカッと笑われる。身を慎むというのは単に控え目ということだけでなく、人をほめるなど時宜に応じた言葉も含んでいるように思います。私はこれまで、ご高齢の方々の慎みある、ほめ言葉にどれほど力づけられ、励まされてきたか知れません。

○15節に「あなたがた自身も生活のすべての面で聖なる者となりなさい」とあります。聖なる者の聖は分ける、隔てるという意味ですね。俗なる物と分けられるということです。しかし、イエス様は聖なる方でしたが、俗なるものの中に身を置いて、生きられました。ファリサイ派や律法学者たちは清さを保つために、罪人や病人そして異邦人との交わりを避けましたが、イエス様は人々が交わりを避ける人の家に入って共に食事をなさり、病人に触れ、彼らを神の国へと招かれました。ペトロの手紙が書かれた頃は、多少の迫害もありました。そんな中この箇所は、人を恐れることなく神を畏れて歩んでいこう、世から召し出された聖なる者として、迫害を恐れず人々に伝道して、共に神の福音の恵みに与ろう、と呼びかけているのです。

○ご高齢の方々が、自分は何もできないと仰いますが、何もできなくてもちっとも構わないと思います。問題に頭を抱えている時、ただ礼拝を一心に守っておられるお姿を拝見すると、信仰の原点を教えられるような気がして、疲れがふき飛んでしまいます。まさに主の憩いを体現しておられるその存在こそ、まさに聖なる人というのでしょうか。その人と共に、神様の平安がある、癒しがある、慰めがある、愛がある、望みがある。ご高齢の方から、私たちは大きな力を受けます。

○ある本に、「老後は、今という時の延長線上にあるのであって、突然くる訳ではない。定年後の第二の人生も、今と別個にあるのではなく、連続している。それ故、今という時を尊く生きることには大きな意味がある。60歳、70歳になっても、自分にとっては、今日が一番若い日である。何かを始めるのに今日が遅すぎるということはない」とありました。年は取っても心は元気、いや年齢など関係なく主にあって一つとされ、今を、俗なる世界を聖として、前を向いて、望みをもって歩いていきたいと思います。